

足利高・足利女子高新校 新校舎等整備基本計画

令和2(2020)年3月

栃木県教育委員会

目 次

1	基本計画策定の趣旨	2
2	統合新校の基本的枠組み	3
	(1) 設置課程・学科等	
	(2) 生徒定員見込み	
	(3) 教職員数見込み	
	(4) 教育課程の編成方針	
3	整備計画	4
	(1) 整備予定地	
	(2) 整備方針	
	(3) 施設規模等	
	(4) 諸室計画	
	(5) 配置計画	
4	整備スケジュール及び概算事業費	9
	(1) 整備スケジュール	
	(2) 概算事業費	
5	資料	10
	校舎等配置イメージ図	

1 基本計画策定の趣旨

足利高校と足利女子高校については、平成 29(2017)年 11 月に策定した「第二期県立高等学校再編計画※₁」に基づき、令和 4(2022)年度に統合、共学化する予定である。また、同計画において、統合新校は 1 学年 6 学級程度の普通科高校とし、進学に重点を置く単位制を導入するとともに、新校舎等を整備することとしている。

新校舎等の整備については、県教育委員会事務局において、「高等学校施設整備指針(平成 28(2016)年改訂)※₂」や本県及び他県の高校整備事例を踏まえながら、進学に重点を置く単位制など、統合新校の特色が生かされる魅力的な学習環境の整備が図れるよう、具体的な内容の検討を進めてきた。また、新校舎等を整備する場所については、足利女子高校の敷地、及び隣接する足利市民会館(別館棟を除く)の敷地を一体的に活用することとし、令和 2(2020)年 1 月に足利市と、足利市民会館の敷地の提供等に関する基本合意※₃を締結したところである。

この「足利高・足利女子高新校 新校舎等整備基本計画」は、これらの検討状況等を踏まえて、今後行う新校舎等の基本・実施設計の指針とすることを趣旨として、整備方針や施設規模、諸室計画、配置計画など、基本的事項について取りまとめたものである。

※1 「第二期県立高等学校再編計画」における足利高校と足利女子高校の統合の概要(抜粋要約)

- ・令和 4(2022)年度に足利高校と足利女子高校を統合。(2、3 年生も新校に転学する一斉統合)
- ・統合新校は 1 学年 6 学級程度の普通科高校とし、進学に重点を置く単位制を導入。
- ・交通の利便性等を考慮し、足利女子高校の校地に新校舎等を整備。完成後に移転。
- ・統合当初は足利高校の校地を使用。新校舎移転後も足利高校のグラウンド等は部活動で使用。

※2 「高等学校施設整備指針」

文部科学省が、学校教育を進める上で必要な施設機能を確保するために、計画及び設計における留意事項を示した指針。

※3 「足利高・足利女子高新校の新校舎整備用地に関する基本合意」の主な内容(抜粋要約)

- ・市は、市民会館(別館を除く)の土地(約 1.4ha)を現状有姿のまま県に提供する。
- ・土地の提供は、県有地との等価交換を前提とする。(交換用地は今後協議)
- ・土地の提供に関する契約は、令和 2(2020)年度中を目途に締結する。
- ・市は、市民会館の土地と足利女子高校の土地の間の道路を廃止する。

2 統合新校の基本的枠組み

(1) 設置課程・学科等

全日制課程・普通科・単位制・男女共学

(2) 生徒定員見込み

各学年 240 人（6 学級）

(3) 教職員数見込み

校 長	教 頭	教 諭	養護教諭	実習教諭	事務職員	計
1	1	52	1	1	4	60

注) 実際の配置数とは必ずしも一致しない。

(4) 教育課程の編成方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領に従い、第二期県立高等学校再編計画における単位制高校の基本的な考え方等※₄を踏まえ、特色ある教育課程を編成する。

※4 第二期県立高等学校再編計画における単位制の基本的な考え方等（抜粋要約）

- ・生徒の興味・関心や進路希望等に応じた多様な教科・科目の開設や、学習習熟度別少人数授業の充実が可能となる単位制の利点を生かし、個に応じたきめ細かな教育活動を展開する。
- ・生徒が自分の学習計画に基づいて、幅広く開設された選択科目の中から、主体的に科目を選択し学習することを通して、意欲や能力を高め、進路実現を図る学校を目指す。
- ・生徒ができるだけ早期に目的意識を明確化し、適切な科目選択ができるように、ガイダンス機能の充実を図る。
- ・大学進学を目指す生徒が多い高校では、進路実現に向けた応用力向上のための科目や探究心を高める発展的な内容の科目を開設するなど、進学に重点を置いて教育課程の特色化を図る。

◆普通科単位制の教育課程イメージ（必修科目と選択科目の割合）

1 年次は高校の必修科目を中心に学ぶが、2、3 年次は幅広く開設された選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じた科目を選択して学ぶことができる。

1 年次	必修科目を中心に学習（数学・英語等で学習習熟度別少人数授業を展開）	
2 年次	必修科目等	選択科目
3 年次	必修科目等	選択科目

一般的な学年制の普通科よりも選択科目の割合が大きくなる。

3 整備計画

(1) 整備予定地

① 所在地

足利市有楽町（足利女子高校敷地及び足利市民会館敷地等 下図㉗㉘㉙）

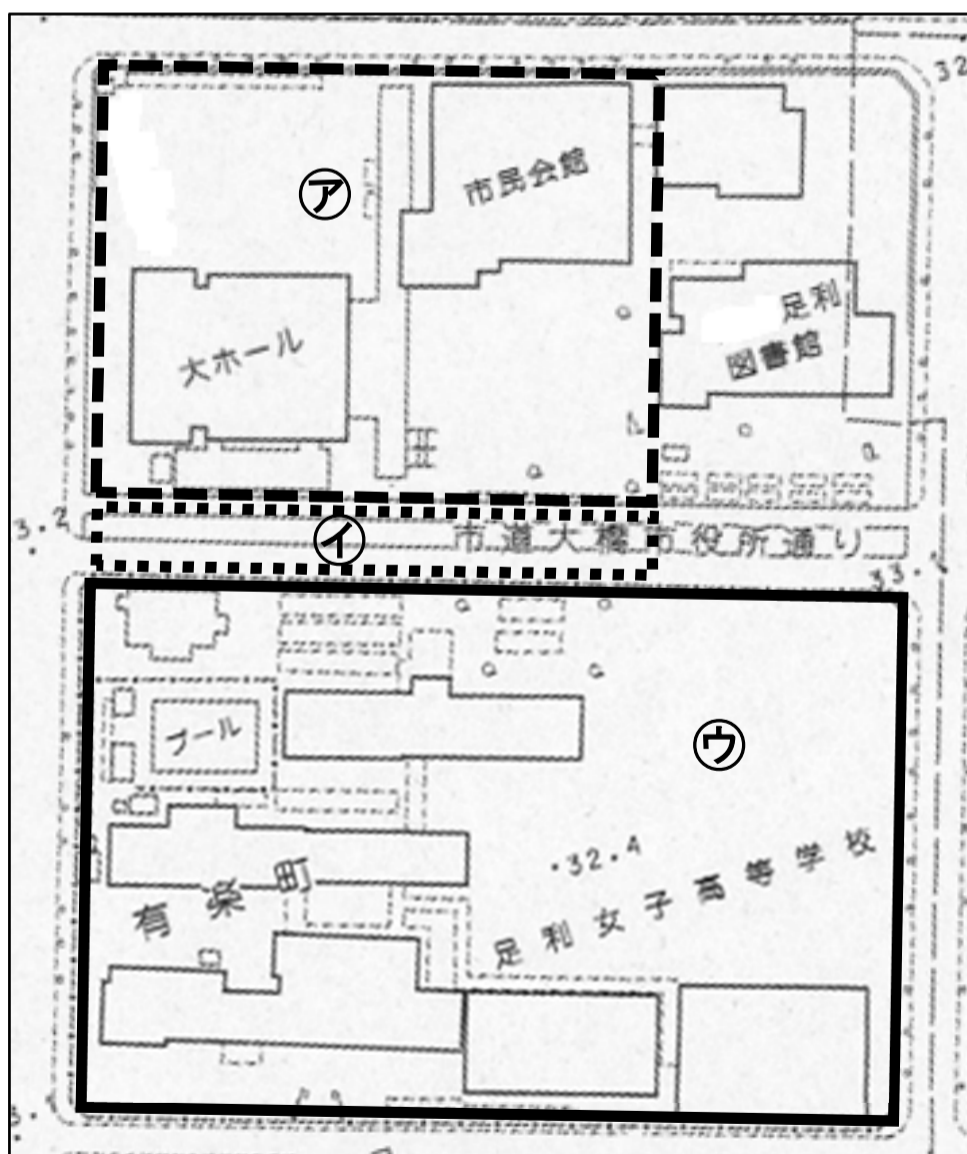
② 敷地面積

約 40,100 m²

③ 法規制等

- ・都市計画区域 市街化区域
- ・用途地域 第一種住居地域（下図㉗及び㉘の北側）
第二種住居地域（下図㉙及び㉘の南側）
- ・建蔽率 60%
- ・容積率 200%

【足利女子高校及び足利市民会館の周辺地図】



㉗ 市民会館（別館を除く）

㉘ 市民会館と足女高の間の市道

㉙ 足利女子高校

(2) 整備方針

統合新校の新校舎等の整備に当たっては、統合新校の基本的枠組みに基づき、本県の県立高校としての標準的な施設を確保するほか、特に以下の7点を踏まえて施設整備を計画する。

① 特色ある学校づくりを推進するための施設

新校に導入する進学に重点を置く単位制の特色を十分に発揮することができる魅力的な学習環境の整備が図れるよう、少人数指導による学習や幅広い選択学習等が円滑に行える施設を整備する。

また、生徒が目的意識を持って学習することができるよう、科目選択履修の支援や進路相談などのガイダンス機能を充実させるために必要な施設を整備する。

② 生徒の主体的な学習活動を支援するための施設

生徒の学習成果の発表・討論のための場や自主的・自発的な学習を促すための空間など、新学習指導要領(令和4(2022)年度施行)が重視する「主体的・対話的で深い学び」を支える施設を整備する。

③ 快適性やユニバーサルデザインに配慮した施設

生徒の学習及び生活の場として、採光、通風、室温、音等の影響に配慮した快適な環境を確保するとともに、障害のある生徒や学校を訪れるすべての人々が利用しやすいように、「栃木県ひとにやさしいまちづくり条例」(平成11(1999)年施行)に基づき、ユニバーサルデザインに配慮した施設を整備する。

④ 安全性を備えた施設

耐震性や耐浸水性等の防災性や、不審者の侵入防止等の防犯性など、十分な安全性を備えた安心感のある施設を整備する。

⑤ 時代の要請に柔軟に対応できる施設

将来の教育内容の変化や情報通信機器の進展等に対応して、空間構成の変更や設備・機器等の更新が容易に行えるような柔軟性の確保や、維持管理のしやすさも含めた施設の長寿命化を考慮した施設を整備する。

⑥ 環境に配慮した施設

太陽光など再生可能エネルギーの導入や木材利用、雨水利用など、環境負荷の低減に配慮するとともに、環境教育の教材としても活用できる施設を整備する。

⑦ 景観に配慮した施設

「足利市景観計画」(平成 31(2019)年策定)を踏まえ、良好な景観や町並みの形成にも配慮した施設を整備する。

(3) 施設規模等

① 校地の使用区分

区分	面積
建物敷地及び駐車場等面積	約 18,900 m ²
運動場面積	約 21,200 m ²
計	約 40,100 m ²

② 建築物面積等

項目	構造	階数	延床面積	建築面積
校舎	R C造	3階	約 8,320 m ²	約 2,770 m ²
体育館	R C造一部 S造	一部 2階	約 2,390 m ²	約 2,220 m ²
武道場	S造	1階	約 400 m ²	約 400 m ²
運動部室棟	W造	2階	約 400 m ²	約 200 m ²
駐輪場・屋外トイレ他	S造	1階	約 880 m ²	約 880 m ²
計			約 12,390 m ²	約 6,470 m ²

注) R C造：鉄筋コンクリート造、S造：鉄骨造、W造：木造

※ 既存のプールについては、解体後の新設を行わない。

(4) 諸室計画

① 校舎

管理諸室	校長室、職員室、事務室、会議室、応接室、放送室、公仕室、進路相談室・進路資料室、保健室、教育相談室、昇降口等
特別教室	物理室、化学室、生物室、音楽室、美術室、書道室、調理室、被服室、地歴公民科室、コンピュータ室、図書室等
普通教室他	HR教室、講義室、大教室、自習室、生徒会室、文化部室等

各学年のまとまりや移動しやすい動線等に配慮して諸室の配置を計画する。

② 体育館

アリーナ、ステージ、準備室、器具庫、トイレ、更衣室、卓球場(2階)等

③ 武道場

アリーナ、器具庫、更衣室等

【特長的な施設】

HR教室	新J I S規格(平成11(1999)年改正)の机のサイズを考慮し、従来より広い面積を有するHR教室(普通教室)を整備する。
講義室	単位制による学習習熟度別少人数授業や多様な選択科目の授業に柔軟に対応できる複数の講義室(30人程度を収容できる普通教室)を整備する。
大教室	生徒の学習成果の発表・討論の場や、科目履修ガイダンスなど学年全員に対する一斉指導の場として、移動可能な机椅子や視聴覚機器等を備えた、1学年全員(240人)が収容可能な面積を有する大教室を整備する。
自習室	生徒一人一人が主体的に活動できる自学自習の場として、自習室を整備する。
図書室	新学習指導要領が重視する探究的な学びや、生徒の自主的な学習の場として、十分な面積と機能を有する図書室を整備する。
進路関係諸室	進路相談やガイダンス指導の場、進路関係資料の保管・閲覧の場として、十分な面積と機能を有する進路指導・相談室、進路資料室を整備する。
体育館	一般的な県立高校の第一体育館及び第二体育館を一体化し、バスケットボールコート4面を配置できる面積を有するアリーナを備えた体育館を整備する。

(5) 配置計画

運動場への日照や、隣接する足利市立図書館との連携等を考慮し、校舎、体育館、武道場等の主な建物は、敷地北側に、運動場は敷地南側に配置する。

なお、参考として、資料(10ページ)に校舎等配置イメージ図を掲載した。

4 整備スケジュール及び概算事業費

(1) 整備スケジュール

年度	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)
仮校舎整備(現足利高校) ・校舎改修工事 ・仮設校舎賃借	設計	工事	新校開校		
		設計・工事	賃借期間		解体
既存施設解体 ・足利市民会館 ・足利女子高校校舎	設計	工事			
	設計		工事		
新校舎整備 ・建築工事 ・外構工事	基本・実施設計		工事		移転
		設計		工事	

(2) 概算事業費 (税込み)

・新校舎設計費、調査費	約	3億円
・新校舎建築工事費	約	58億円
・新校舎外構工事費	約	6億円
・仮校舎整備費、備品購入費他	約	3億円

計 約 70億円 (既存施設解体費は除く)

※上記の整備スケジュール及び概算事業費は現段階での見込みである。

